

# 名事研=ユス

一面 名古屋市中特別支援学校事務職員研究大会  
二面 グランドデザイン報告・全国大会参加報告

## 経験に応じた研修で成長を 十九回目の研究大会開催される

平成二十六年一月二十二日に第十九回名古屋市中特別支援学校事務職員研究大会が開催されました。「名古屋の学校事務をデザインする」つながり 高めあい 進めよう—をテーマにして三年目となります。当日は区学校事務研究会の発表に始まり、研究発表では『描こう！私たちの成長物語』—経験に応じた研修とその体系化をとおして—と題し、主事から事務長にかけて、経験に応じた研修を発表しました。平成二十三年度で策定した「名古屋の学校事務のグランドデザイン」（以下「名古屋GD」）の今年度の年次テーマ「研修の体系化」とも関係した、充実した内容となりました。今号は、名古屋GDについて、今年度名事研組織として取り組んだ内容の状況報告や、八月に開催された全国公立小中学校事務研究大会石川大会の参加報告と併せてお届けします。

### 研究発表

『描こう！私たちの成長物語』  
—経験に応じた研修とその体系化をとおして—

発表 名事研発表部  
助言者 山内敏之氏（名古屋市教育局教職員課長）



発表部から経験に応じた研修体系の発表がありました。最終目標となる目指す学校事務職員像へいさなり向かうのは目標が高すぎるため、目標を階段状に細かく定めて向かいやすくし、細かくした目標を達成するための手段として、研修体系を発表しました。そこを、あるひとりの学校事務職員が採用から目指す姿まで、研修や研修会に参加することで一歩ずつ成長していく様子をドラマ仕立てて発表しました。適宜会場の参加者にも考えてもらうために話し合いタイムを設け、更に研修体系ごとのポイントを示して参加者に大事な箇所を共有できるように配慮もありました。研修体系の中では、採用一年目から十年目までの主事の期間は身につけるべき力が多いことや、初期段階でつまづかないために、細かく階段分けされていることの説明がありました。主事の中でも最初の段階と云える五年目までは、学校間連携・OJTやその他の研修と研修会との違いや、職員との協働について取り上げられ、その中で研修内容の実践などを行って成長していく姿の発表がありました。

そして、主事の後半の段階である六年目から十年目までは問題の改善力、後輩も増えてくることに伴って必要となる教える力、問題を改善することによって時間を生み出す必要となる領域の仕事を行うために必要な研修についての発表がありました。この中には研修は必ずしも一学校事務職員が必要とする時期と一致しないこともあるため、名事研が提供している自主研修資料「S o i a」についての説明もありました。主任から事務長までは、それまでに得た知識や経験をもとに、立場や意識の違いを自覚することが重要になります。

主任からは、チームを意識し、チームでの課題解決に関わることにポイントになるという発表でした。個からチームへと意識を変えて、職務にも、研修にも取り組むことが大切であるということによって、

した。

主査では、チームのまとめ役として、リーダーシップ・指導力を身につけること、事務長では、広い視野をもってチームを総括し組織づくりに関することについての発表がありました。研修で教えてもらうのではなく、研修で再発見をして、その成果を学校や学校間連携に寄与していく立場にあり、質問を受ける機会こそ自身を伸ばすチャンスと考えるなど、あらゆることを「自分を成長させる」研修として捉え、成長につなげていくことも大切とのことでした。

その後、発表された段階ごとの研修体系に、現在実施されている研修をあてはめて、現状はどうなのかという説明がありました。足りない部分をどう補っていくかなどを今後の課題とし、自分の段階を意識して、周りに関わりながら、みんなで成長していく研修体系を目指していくということでした。



### 山内課長の助言

山内課長は、「人材育成には個人によるものと集団（組織）によるもの

## 区研究報告

### 緊急な業務執行を減らそう！

（港区研究発表）

港区は、「年度末・年度始めの事務処理の流れ」をテーマとして発表がありました。

学校事務職員の異動サイクルの短縮により、異動回数的大幅増加が見込まれ、ほとんどの学校が、行政職員は一人の為、異動の度に職場になじむまでに時間がかかり、負担が増加しています。そのことも踏まえ、港区の平成二十四年度の研究活動の一つの「初任者の仕事の進め方」の発展として今年度の研究が進められました。

港区の会員に、「年間業務カレンダー」、学校事務業務の「重要度」と「緊急度」について点数化し数値化を試みました。学校事務業務達成に必要な時間についてアンケートを実施しました。アンケートの結果、「年度末・年度始め」は、一つの学校業務処理に時間をかけることが難しかったため、円滑な事務処理をおこなう必要があることがわかりました。また、平成二十二年四月から平成二十四年度までの三月・四月のメールアドレスの調査をし、予め学校事務業務を予測することは、ある程度可能であることもわかりました。

また、OJTの必要性について、「自分自身の成長のために、周りを巻き込みながらチャレンジしていくことが大切であり、身につけたことを職場で還元し、積極的に他の職員とコミュニケーションを図りながら、仲間意識をもって協働を実現し、成長していくて欲しい。」と提言されました。最後に山内課長は、「学校事務職員一人ひとりの力量向上が大切であり、研修等の機会を活かし、人との出会いを大切にして、良い意味でのプレッシャーを感じ、楽しみながら、自分の成長を感じていくて欲しい。そして、今以上に学校になくてはならない存在になって欲しい。」とまとめられました。



### 継続的な研究を目指して！

（西区研究発表）

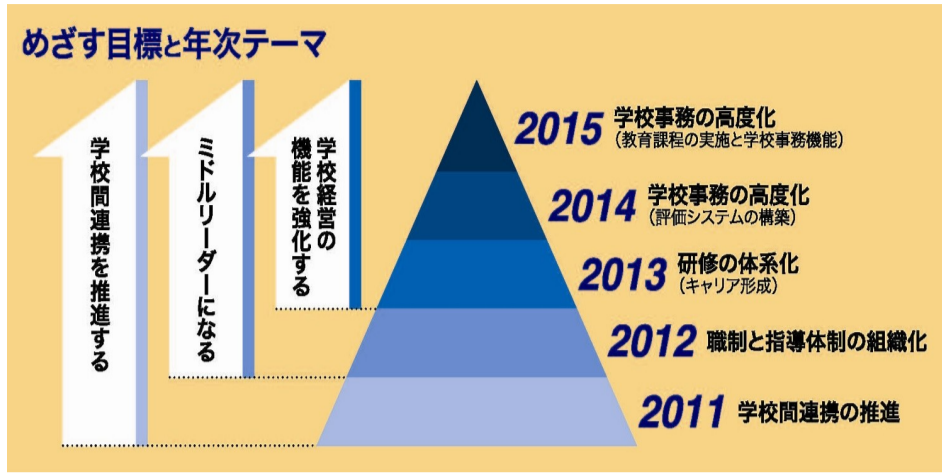
西区の発表では「事務部経営案」について発表がありました。学校事務職員が最長五年で異動となり、今後各校で継続して行う必要のある実践が難しくなるといった課題が出てくるのではないかと考えたこと、単年度完了の研究ではなく、継続的な研究である事務部経営案に取り組み、その研究成果について発表がありました。

昨年度からの研究内容である「事務部経営案」について、各学校で提案したことによる効果を検証するために、各学校長に、経営案の内容についてのアンケートを実施しました。アンケートの結果から、「事務部経営案」を実施するにあたり、「作成の負担軽減」や「提案の意義についての共通理解」の改善点が見つかりましたが、「学校教育目標に向けて具体的方策が明確となり、プランを共有できる」などの高評価を得ることができました。現状では、各校の全職員へ「経営案」の提案の意義を説明し、浸透させることが難しいものの、他職種に向けた提案の意義は確実にあり、今後も継続して実践を進めたいという前向きな発表が行われました。他にも南養護学校への施設見学、服務（勤務時間の割振りについて）や業者一覧の資料作りなど、今年度の活動の取り組み内容について発表がありました。

# 新しい名古屋の学校事務をみんなの力で～グランドデザインの取り組み～

名事研は、平成二十三年度に学校づくりに積極的に関わり、名古屋の学校事務をより効果のあるものにしていくために、「名古屋GD」を策定しました。今年度が三年目となります。

「名古屋GD」は、目標に向けた行動に継続性を持たせ、「みんな」で「方向性をあわせる」ための実行策として、年度ごとの「年次テーマ」を設定しています。平成二十五年度は「研修の体系化」のテーマのもと、具体的行動を掲げた行動計画を定め、事業に取り組んできました。



事務局は、「名古屋GD」を推進していくために、専門部の行動計画について進捗を把握するとともに、平成二十六年度の行動計画の作成に取り組みました。「名古屋GD」の理念や行動計画の内容について、会員への働きかけを行なったうえで、意見集約を行い、計画の見直しなどを行いました。

研究部は、昨年度の年次テーマ「職制と指導体制の組織化」の研究を受け、今年度は学校運営組織の中での職名別の役

割や、その役割を果たすために必要な能力について考え、「名古屋の学校間連携のスタンダード」を作るための研究を進めました。

研修部は、行動計画の具体的行動にある「経験別研修の充実をはかる」を受けて、全体研修、経験年数一〜三年対象の経験別研修、主任相当対象のステップアップ研修を企画・運営しました。また、同計画の必要な条件に「自主研修資料(SO-α)の提供とあるように、自主研修資料の新規作成や更新を行い、研修機会の充実を図りました。そのほか、市研究大会では発表部の中心となり、名古屋の学校事務職員の研修体系について、研究発表を行いました。

情報部は、広報活動を中心に活動しました。名事研メールの配信、名事研ニュースや会員向けの広報誌「じむけん」の発行を行いました。また、例年どおり会員向けの資料提供、他に情報調査やホームページの新コンテンツの立ち上げを行いました。こうした活動を通じて、学校事務の平準化に必要な情報の収集および提供に努めました。

世話係会では、「学校事務ハンドブック」についてのアンケートを行いました。また、各区学校事務研究会の組織体制について調査し、情報の共有を図りました。

今年度は昨年度に研究部が行った職名別の役割や学校間連携の活用の可能性についての研究をもとに、いつ・どの段階で・どのような研修があるかといったことを考えることで、専門部間の連携による活動に取り組まれました。

一方で、連携による事業を進める上で、その連携のしかたに工夫が必要なことや、部員の構成について人数・経験年数といったバランスが不十分であることなどの課題があります。また、全体で取り組み大きな力を期待しているものの、会員への浸透が不十分であり、大きな成果へつながっていないことも課題です。昨年度に引き続き、こうした多くの解決しなければならぬ課題を整理していく必要があります。平成二十六年度の年次テーマは「学校事務の高度化(評価システムの構築)」です。

今年度提案した研修の体系化を踏まえ、次年度はその研修を企画・運営を進めていくとともに、名古屋の学校事務の評価システムの構築について研究していきます。学校事務の高度化という観点から、評価を生かして改善する仕組みづくりを、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

## 第四十五回全国公立 小中学校事務研究大会 石川大会レポート

平成二十五年八月七日から三日間、第四十五回全国公立小中学校事務研究大会(石川大会)が石川県立音楽堂で開催され、名事研からも複数の方が参加しました。

そこで、皆様への今後の研究活動の一助として、研究大会の情報を還元するために、各分科会に参加した方から、分科会の内容や参加した感想などについて取材しましたので、報告します。



### 第一分科会 (栃木支部)

・どのような取り組みの発表がされましたか？

「組織化」「能力開発」「経営参画」の三点を中心に、栃事研がとちぎの学校事務の基本報告を明確にすることを目的として策定した「とちぎ学校事務ビジョン」と、その実行策である「とちぎチャレンジプラン」についての発表がありました。

・名事研や学校間連携にあたるもので、視点の違い、新しい取り組みはありましたか？

宇都宮市で実施されている「小中一貫教育地域学校制度」です。地域学校園内の小学校間や中学校間での予算流用が出来ることで、予算の編成から執行までを地域学校園全体として捉えていることです。

・特に印象に残っている発表内容は？

「とちぎの研修体系図」が特に印象に残りました。体系図を見ることで、学校事務職員のスキルアップやキャリア形成が具体的にイメージ出来ました。特に若手の学校事務職員にとって、自己分析や目標を立てる良い機会になると感じました。また、助言者の「学校事務は可能性のある分野」という言葉が印象的でした。

### 第三分科会 (福井支部)

・どのような取り組みの発表がされましたか？

県教委と福井県事研が連携して実現した取り組みとして、保護者対応等の様々な場面で教職員が活用できる手引書「信頼ある学校づくりのための対応ナビゲーション(以下、対応ナビ)」の実践報告がありました。

・名事研活動や学校間連携、各自での取り組みなどに具体的に生かせそうなことはありましたか？

福井県事研では研修体系として階層別に目標を設定し、研修プログラムにまとめています。研修プログラムは職務標準表を基にその年度の研修計画を立てる際に利用し、必要な研修内容の項目が列挙された研修シートに受講者各自が記入し、年度末に自己評価するようにしています。

・特に印象に残っている発表内容は？

「対応ナビ」を単に手引書として、ことが起こってから見るものとせず、校内の現職教育や初任者研修、教育事務所での研修・発表に活用したことです。

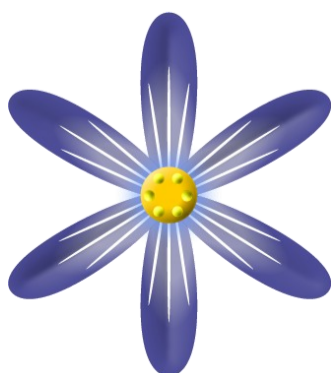
### 第五分科会 (石川支部)

・どのような取り組みの発表がされましたか？

「学校経営ビジョンの実現と学校事務」(財務から学校経営参画をめざして)という研究テーマのもと、「新たな時代の学校で、みんなが財務の統括者となる」を目標に、五つの経営資源のうち、「カネ」を学校経営ビジョンの実現に結びつける研究について、県内十地区の実践研究発表による分科会と全体会による二本立てでの研究発表がありました。

・特に印象に残っている発表内容は？

「フルコスト」です。フルコストとは、公費予算・保護者負担経費等の区別をせず、学校経営におけるすべての経費を把握することです。羽咋地区では、分かり易く図式化した統一資料を作成していました。公費私費の区別無く、すべての経費を図式化するという発想はなかったもので、大変新鮮でした。



### 編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。  
今回の名事研ニュースは、研究大会を中心とした内容で作成しました。名古屋GDも三年が経過しようとしています。これからも皆様と名古屋GDの活動を進めていく上で、名事研活動に興味を持っていただけるような紙面作りを取り組んでいきたいと思っています。

今後とも名事研活動にご協力下さい。